

新美南吉記念館だより

NIIMI NANKICHI MEMORIAL MUSEUM NEWS

発行 新美南吉記念館 〒475-0966 愛知県半田市岩滑西町1・10・1 Tel. 0569-26-4888 <http://www.nankichi.gr.jp>



七 月三十日（金）は「南吉さんの日」。新美南吉の一〇八回目の誕生日でした。コロナ禍に誕生日を迎えるのも今年で二度目です。昨年に続き、「みんなで祝おう！新美南吉生誕祭」と題して、イベントの代わりに、皆様から南吉へのメッセージやイラストを募集しました。さらに今回は誕生日ということで、紙製ケーキとフ

みんなで祝おう！新美南吉生誕祭

～108回目の誕生日をお祝いして～

- ①紙製バースデーケーキを披露するごん吉くん
- ②南吉の肖像と献花台＆フラワースタンド
- ③全国から集まったお祝いメッセージ&イラスト

フラワースタンドを作るため、来館者の方々に紙のお花やいちご、ろうそく等を作っていただきました。中には郵送で参加される方もいて、最終的にお花が五三四个、いちごが六十四個、ろうそくが八十二本、折り紙の飾りが二十六個、メッセージが四十四通、イラストが三十枚も集まりました。応募してくださった皆様、本当にありがとうございました。

ケーキやメッセージボードは、七月二十三日（祝）～八月十六日（月）まで、エントランスに飾らせていただきました。

また、誕生日当日は記念館を無料開放し、献花台を設置しました。コロナ禍ではありますが、昨年よりも来館者が多く、たくさんの方が花を手向けてくださいました。紙のお花と合わせて、花でいっぱい誕生日になったと思います。

当日の様子や、寄せられたメッセージ・イラストの一部は、ツイッターで「#南吉さんおめでとう2021」と検索すると見ることができます。

西

「中文分級閲読文庫」に選ばれた南吉童話集

周龍梅

西

二〇二一年四月十八日、中国の南京人民大会堂で第十六回「中国全国児童読書シンポジウム」が開かれ、「親近母語（母国語に親しもう）」国語学年別読書（副読本）書目が正式に発表されました。

さらに六月十九日、『中文分級閲読文庫』全シリーズ（一年生から九年生まで全百八冊）の正式発表会が中国国家図書館（北京）で行われ、同時に教師用の指導書も発表されました。シリーズを選んだ「親近

母語」という団体は、中国全土の教育界や読者の間で大きな影響力のある信頼性の高い公益組織です。審査員は中国教育界における權威ある教育研究者、指導者、優秀教師、読者代表などで構成され、保護者から篤く信頼されています。ここで選ばれる図書は、子どもにも保護者にも人気で、今後、発行部数も普及率も教育部（日本の文部科学省にあたる役所）審定による教科書を遥かに上回るようになります。

この度、そのシリーズの中に新美南吉の訳本が二冊選ばれました。一年生の部には『きつねのつかい』（周龍梅・彭懿訳／二〇二〇年／江蘇鳳凰文芸出版社）、四年生の

文分級閲読標準」によると、選ばれる一番の基準はヒューマンな作品であることとなっています。なお、日本人作家では宮沢賢治の『銀河鉄道の夜』（同）も

シリーズに選ばれたことで、今後、全国に向けて大々的に販売され、学校の教育活動や各種の読書運動に使用されます。今年の夏休みは熱い読書活動が繰り広げられ、南吉の童話が再度多くの中国の子どもたちに広く深く読まれるでしょう。南吉の心が皆に伝わるよう、世界が平和で穏やかであるよう祈念します。

※1 日本の小学一年生から中学三年までにあたる。

※2 「去年の木」は、人民教育出版社の四年生用教科書に二〇〇四年から二〇一八年まで掲載された。（最終年のみ三年生用）



＊其中《彼得兔的故事》《大熊巴巴的故事》无注音

よると、両書が選ばれた理由は、それぞれ年齢層の児童の認知度や読書力、心理的特徴に合い、資質教育の点でも南吉の人間性豊かでほのぼのとした温もりのある作品がもつとも相応しいからだそうです。ちなみに「中



るかもしれませんが、中国では十年以上にわたり、南吉の「去年の木」が教科書に掲載され、子どもたちに馴染み深い作家であることも関係しているかもしれません。

【寄稿者プロフィール】
周龍梅

中国ハルビン師範大学外国学部日本語科卒業、日本立正大学国文学修士課程修了。主に宮沢賢治・新美南吉・小川未明の童話作品の翻訳に携わり、最近では日本の絵本翻訳にも取り組んでいる。

聖火、南吉のふるさとから東京へ



八月十四日(土)、記念館の屋外休憩所で、東京2020パラリンピック聖火フェスティバル採火式が執り行われました。

式典のテーマとなったのは南吉の童話「ひとつの火」です。そのストーリーは、「わたし」が牛飼いのろうそくに灯してやった火が、人から人へ繋がれていき、今もどこかに灯っているのではないかと想像するもの。正に採火式にはぴったりのお話です。

式典が始まると、久世半田市長の挨拶の後に、この「ひとつの火」が朗読されました(左写真)。朗読してくれたのは、南吉の母



校・半田高校放送部に所属する渡邊葵さんです。蟬時雨に負けず、最後の言葉まではつきり語り終えると、会場から拍手が贈られました。

その後、半田市肢体不自由児・者父母の会を代表して、青木かおりさんと優さんが、聖火ランタンに火を灯しました。採火に使われたのは、記念館で保管していた南吉と同じ時代のランプです。そのランプにつけた火を、聖火ランタンへ移す形で灯した火は、翌日名古屋にて県内各地の火とともに集火され、ひとつの火となって東京へ送り出されました。

式典後にはフォトセッションもあり、半田市PR大使の平野泰新さんや、新美南吉童話イメーজキャラクターのどん吉くんも参加して、明るい撮影会になりました(右下写真)。

当日はコロナ禍により無観客での開催となりましたが、式典の様子は全て半田



市公式インスタグラムにてライブ配信されています。現在も動画が公開されていますので、ぜひお家でご覧ください。

ひとつの火



わたしが子供だったじぶん、わたしの家は、山のふもとの小さな村にありました。

わたしの家では、ちょうちんやろうそくを売っておりました。

ある晩のこと、ひとりのうしかいが、わたしの家でちょうちんとうろうそくを買いました。

「ぼうや、すまないが、ろうそくに火をともしてく

れ。」
と、うしかいがわたしにいました。

わたしはまだマッチをすったことがありませんでした。

そこで、おっかなびつくり、マッチの棒の端の方をもってすりしました。すると、棒のさきに青い火がともりました。

わたしはその火をろうそくにうつしてやりました。

「や、ありがとう。」

といって、うしかいは、火のともったちょうちんを牛のよこはらのところにつるして、いってしまいました。わたしはひとりになってから考えました。

——わたしのともしてやった火はどこまでゆくだろう。

あのうしかいは山の向この人だから、あの火も山を越えてゆくだろう。

山の中で、あのうしかいは、べつの村にゆくもう一人の旅人にゆきあうかも知れない。

するとその旅人は、

「すみませんが、その火をちょっとかしてください。」
といって、うしかいの火を

かりて、じぶんのちょうちんにうつすだろう。

そしてこの旅人は、よつびて山道をおいてゆくだろう。

すると、この旅人は、たいこやかねをもったおおぜいのひとびとにあうかもしれない。

その人たちは、

「わたしたちの村のひとりの子供が、狐にばかされて村にかえってきません。それでわたしたちはさがしているのです。すみませんが、ちよっとちょうちんの火をかしてください。」

といって、旅人から火をつけるだろう。長いちょうちんやまるいちょうちんにつけるだろう。

そしてこの人たちは、かねやたいこをならして、やまや谷をさがしてゆくだろう。

わたしはいまでも、あのときわたしがうしかいのちょうちんにともしてやった火が、つきからつきへうつされて、どこかにともっているのではないかとおもいます。

記念館からのお知らせ

中止 令和3年「ごんの秋まつり」

今年も新型コロナウイルス感染拡大防止のため、「ごんの秋まつり」は中止いたします。誠に申し訳ありませんが、彼岸花を目的とした来館はご遠慮ください。秋まつりの中止に伴い、下記期間は団体見学をお断りさせていただくほか、平日・休日に関わらず記念館駐車場へバスの乗り入れができません。ご迷惑をおかけしますが、感染防止のためご協力ください。

〈団体見学とバスの乗り入れができない期間〉

2021年9月20日(月)～10月4日(月)

特別展「コロナ禍に南吉を読む」 — 感染症と新美南吉 —

会期 10月24日(日)まで

場所 記念館展示室

観覧料 220円(高校生以上)



新美南吉記念館×半田赤レンガ建物 共通入館券ができました！

新美南吉記念館と半田赤レンガ建物の観覧券がセットになったお得な「共通入館券」を、7月1日から販売開始しました。両館合わせて90円お得になりますので、市内の観光にぜひご利用ください！

販売所 新美南吉記念館・半田赤レンガ建物

価格 330円(税込み)

※中学生以下、障がい者手帳をお持ちの方は無料

期限 購入日の翌日まで

赤レンガ建物 HP



日誌抄：

四月(卯月)

▼11日 「榊原澄香ペーパーアート展」終了。会期中観覧者数5395人▼17日 「三浦よし木 漫画「花をうめる」原画展」—作品に描かれた「遊び」と「恋」— 始まる(〜7月4日)

五月(皐月)

▼2日 「南吉さんのはちみつ採蜜体験会」。於記念館芝生広場▼4日、5日 「正八ちゃん端午の節句」。両日来場者数533人▼7日 岩滑小学校4年生67人が、記念館敷地内の谷地で蛍の幼虫を放流▼同日 NHKラジオ「武内陶子のごごカフェ」で「#明日をとどける」が紹介される▼23日 Eテレ「新美南吉 絵本のおくりもの」が放送される

六月(水無月)

▼1日 第33回新美南吉童話賞作品募集始まる(〜9月10日)▼8日 岩滑小学校児童があん川堤に彼岸花の球根を植栽▼9日 「みんなで祝おう！ 新美南吉生誕祭」メッセージ等募集

開始▼16日 岩滑小学校で出前授業。6年生61名参加

▼26日 田んぼアート田植え▼同日 NHKラジオ「名古屋深夜便」で南吉

童話7編の朗読が流れる▼27日 第176回新美南吉読書会。20名参加。於半田

市福祉文化会館▼29日 岩滑北保育園園児がごんの飛

び石付近で彼岸花の球根を植栽

七月(文月)

▼1日 「記念館×赤レンガ共通入館券」販売開始▼3日 南吉の詩「窓」を使ったハウスメーカーナイエのCM放送が在名5局で始まる▼4日 「童話創作講座」一回目。17人参加▼同日 「三浦よし木 漫画「花をうめる」原画展」終了。会期中観覧者数3213人▼10日 ワークショップ「帰ってきた『ごんぎつね』。講師・福田秀志氏(日本福祉大学教授)。於記念館屋外休憩所▼17日 ミュージアムトーク。7人参加▼30日 「みんなで祝おう！ 新美南吉生誕祭」開催(〜8月1日)

※はごんのふるさとネットワーク主催の行事